

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	茨城県
-------	-----

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	龍ヶ崎市立松葉小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	22
児童数	50	52	57	61	74	74	4	372	

研究の概要

1. 研究主題

「基礎・基本の定着と自ら学ぶ力を育てる学習指導の在り方」 ～「確かな学力」を身に付けさせる算数科少人数指導の実践～
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

実施学年 全学年 教科 算数科 理由 「学力診断のためのテスト」等の実態調査の結果から、基礎・基本の定着が不十分であること、特に算数科においてそれが顕著であることから、算数科の学力向上のための研究に早急に取り組む必要があると考えられるため。

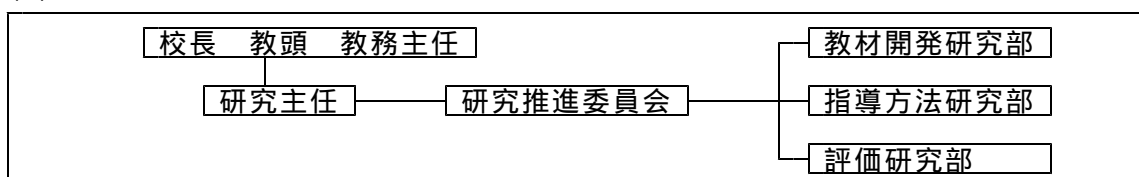
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 全学年・全学級の算数科全時間において少人数指導またはTTを実施する。</p> <p>習熟度別学習指導を取り入れ、個に応じた指導の実践を図る。 発展的・補足的な学習の指導のための教材開発を行い、個に応じた指導に役立てる。 「確かな学力」の評価の在り方を研究し、指導と評価の一体化を図る。</p> <p>研究の見通し 発展的・補足的な学習、個に応じた指導のための教材の開発 ステップアップテスト全般の検討、修正、活用 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 少人数指導、TT全般の検討及び習熟度別学習指導の展望、実践 パソコンを活用した評価方法、個人カルテ作成の研究 自己評価カードの作成と活用</p> <p>研究の内容・方法 第1学年におけるTTの実践 ア 単元名 ひきざん(2) イ 研究授業のねらい 子どもが減加法、減減法のどちらで考えるかの反応を予想しておき T1、T2の役割を明確にし、比較検討の話し合いがより深まるように支援をする。 第1学年におけるコース別少人数指導の実践 ア 単元名 みんなでさんすう イ 研究授業のねらい 1つの学級を2つのコースに分け、少人数で指導することにより、子どもがより意欲的に学習に取り組めるようにし、計算技能の向上を図る。</p>
--------	---

	<p>第2学年における学年を3つのコースに分けた習熟度別指導の実践</p> <p>ア 単元名 かけ算(2)</p> <p>イ 研究授業のねらい 単元の最後に、習熟度別コースを設定し、かけ算九九の定着を図るとともに、個に応じた指導を行い、かけ算の習熟を図る。</p> <p>第3学年における1つの学級を2つのコースに分けた習熟度別学習指導の実践</p> <p>ア 単元名 ぼうグラフと表</p> <p>イ 研究授業のねらい 学級を習熟度別の2つのコースに分け、資料を選択させることにより、意欲的に学習に取り組ませると共に、グラフをかく力の習熟を図る。</p> <p>第4学年における学級を2つのコースに分けた習熟度別学習指導</p> <p>ア 単元名 面積</p> <p>イ 研究授業のねらい 学級を習熟度別の2つのコースに分け、発展的教材と補充的教材とを準備して取り組ませ、面積の求め方の習熟を図る。</p> <p>第5学年における学級を3つのコースに分けた習熟度別学習指導の実践</p> <p>ア 単元名 四角形と三角形の面積</p> <p>イ 研究授業のねらい 1つの学級を3つのコースに分けることにより、個に応じた指導を展開し基礎・基本の習熟を図ると共に、発展的な課題に取り組ませる。</p> <p>第6学年における学級を3つのコースに分けた習熟度別学習指導の実践</p> <p>ア 単元名 分数のわり算</p> <p>イ 研究授業のねらい 1つの学級を3つのコースに分けることにより、個に応じた指導を展開し、基礎・基本の習熟を図ると共に、発展的な課題に取り組ませる。</p>
--	---

平成16年度	<p>テーマ 全学年・全学級の算数科における児童の実態と指導内容とに応じた効果的な少人数指導，TTの計画的な実践 習熟度別学習指導における，実態調査に基づいた個に応じた指導の実践</p> <p>発展的・補充的な学習の指導のための教材開発の積み上げと活用 「確かな学力」の評価の在り方の継続研究と児童の自己評価を生かした指導と評価の一体化の研究</p> <p>研究の見通し 発展的・補充的な学習，個に応じた指導のための教材の開発と活用 ステップアップテストの計画的実践による計算技能の向上，及び他領域のステップアップテストの作成 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の年間指導計画への位置づけ</p> <p>少人数指導，TT全般の検討及び習熟度別学習指導の実践研究 パソコンを活用した評価方法の継続研究，個人カルテ作成 自己評価カードの作成と活用による指導と評価の一体化</p> <p>研究の内容・方法 授業研究による少人数指導，習熟度別学習指導の効果の実証研究 「学力診断のためのテスト」等による学力向上の考察 保護者の意識調査や保護者による学校評価を生かした学力向上のための施策の実行，及び保護者の参加する研究体制の推進</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- (1) 指導方法の改善を図るとともに、少人数指導、TTの実践により、基礎・基本の定着を図り学力向上へ向けた指導体制が整いつつある。また、指導計画に学習形態を位置付けることにより、従来の一斉指導から個に応じた指導を重視する態勢が整った。
- (2) 少人数指導においては、以下の諸点について実証することができた。
少人数での指導は、一人一人の学習の様子を見取ることができるため、個に応じた指導の展開が容易である。
少人数での指導は、子どもの発表の機会が増えるので、学習意欲の向上につながる。また、話し合いでの意見の表明にもつながり、思考が深まる。
少人数指導では、つまずきへの対応が容易にできるので、補完的な指導をより充実させることができる。
- (3) 習熟度別指導においては、以下の諸点について実証することができた。
習熟度別指導では、個々の習熟の度合いに応じてコースを選択できるので基礎・基本の定着が図れると共に、発展的な学習が可能となる。
習熟度別指導では、コースを子ども自ら選択する場合に学習意欲の高まりが見られる。
自己評価カードの活用により、子どもがコースを選択する際に参考になるとともに、教師の評価への参考にもすることができる。また、どこでつまずいているのか把握できるため対応ができる。
- (4) ステップアップテストの実施により、計算技能を段階的に向上させることができた。

2. 今後の課題

- (1) ねらいに応じた発展的・補完的な教材の開発を更に進め、全ての単元における少人数指導の内容の充実を図っていく必要がある。
- (2) 個に応じたきめ細かな指導を行うことができるように、教師の指導技術を更に向上させて行くことが重要である。
- (3) 指導と評価の一体化を目指して評価の研究を更に進めなければならない。また個人カルテを作成し、個に応じた指導をよりきめ細かく行うことが求められる。
- (4) 年間指導計画を見直し、少人数指導及び習熟度別指導を明確に位置付けるとともに、指導計画を多様化し、つまずきへの手だてを明示しておく必要があると考えられる。

学力等把握のための学校としての取組

学力診断のためのテスト

目的 国語，社会，算数，理科の各教科の学習到達度について総合的に実態調査をする。

実施内容 国語，社会，算数，理科の各教科の前年度の学習状況の診断

実施時期 4月下旬

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

学力向上フロンティア事業中間発表会

日時 平成15年12月3日(水)

場所 松葉小学校，長山小学校，長山中学校

対象 教職員，保護者，県内各校教職員

目的 シンポジウムの実施による学力向上のあり方の協議
研究授業の公開，及び研究成果の公表

龍ヶ崎市教育センター主催研究主任等連絡会における事例発表

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無